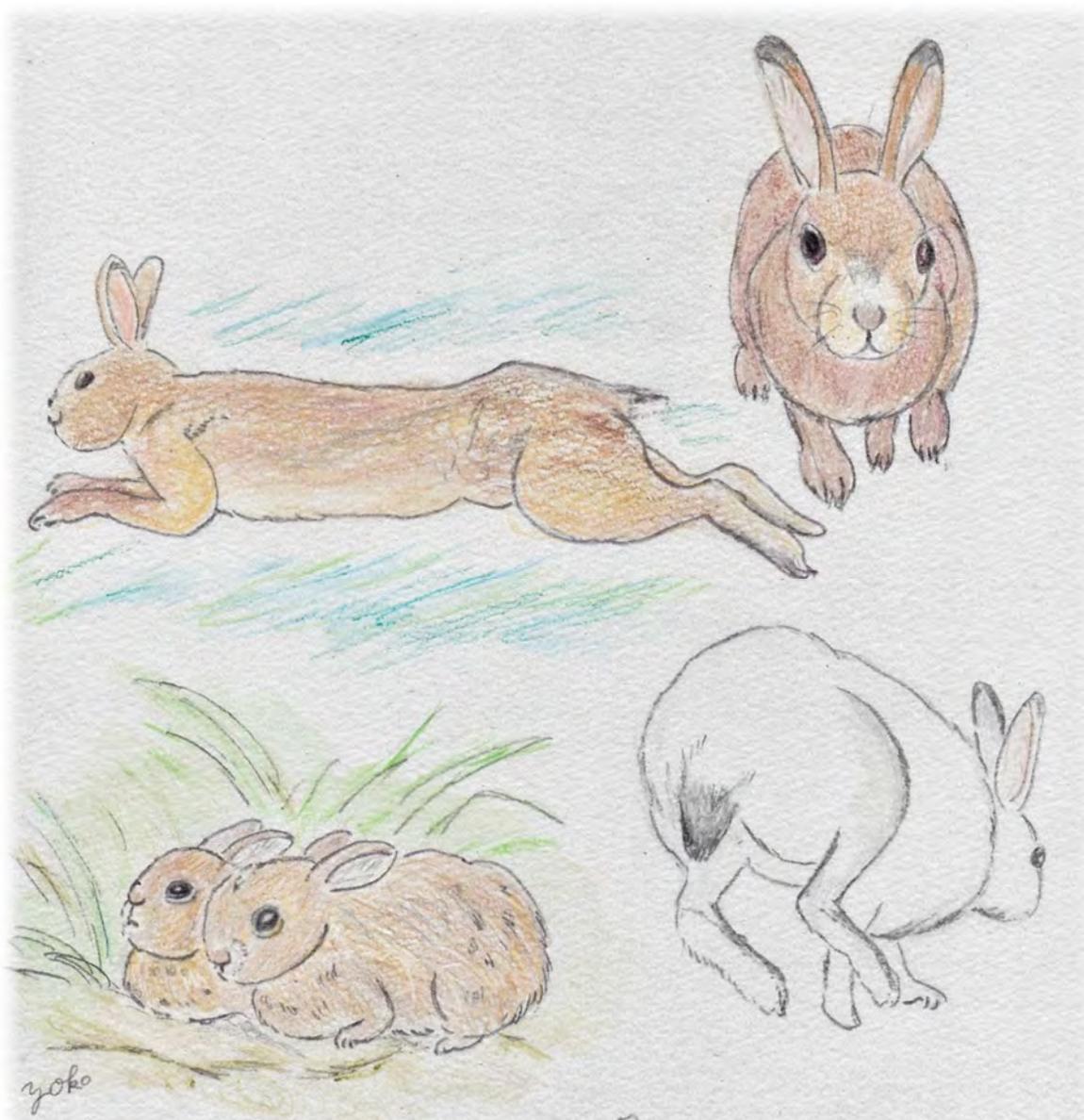




# RUNNER

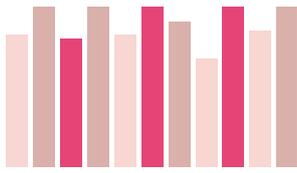
Vol.30



yoko

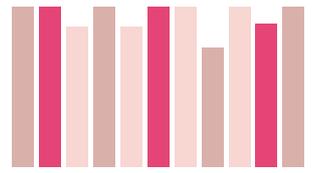
## 目次

活動の現場	… 2
お知らせ	… 5
神奈川県立生命の星・地球博物館に「鳥の仮はく製」を作りに行こう	… 6
野生動物痕跡調査団 ミッションその② びよん大量発生中！？	…10
～On your side～	…14
2017 年度事業報告・2018 年度事業予定(案)	…16
インフォメーション	…20



# 活動の現場

このコーナーでは普及啓発活動やイベントなどに参加したボランティアがその体験をもとにレポートしています。



## 2017年 大掃除の報告

12月9日、お天気は良いけれど北風が半端なく寒い日、32名のボランティアさんに参加して頂き保全センターの大掃除を今年も無事済ませました。

各々が、日頃気になりながらも手が付けられないでいた窓拭きをはじめ、ブラインドや換気扇の掃除、はたまた高圧洗浄機も登場して、100万円ハウスの外壁の汚れ落としまで、頑張りましたよ！

そして、お昼には、暖かい豚汁と、手の込んだ惣菜で、暖を取り、新旧入り混じっての懇親会、この一年を振り返り、また来年へ繋げる決意を新たにしました。



## 2017年12月23日 探鳥会の報告

12月23日(土・祝) 大和市の泉の森～ふれあいの森に探鳥会に行ってきました。日差しが暖かく暑いぐらいのいいお天気！総勢8人の参加者、ベテランと初心者という構成。

泉の森は、国道246のよく混む場所なので、場所は知っていましたが、行ってみれば広くてとても自然の豊かな公園でした。9時から12時過ぎまでの3時間、数えれば30種類の鳥たちを観察する事ができました。池では、キンクロハジロ・ヒドリガモ・オオバン・カイツブリ・バンなど林では、アオジ・エナガ・ヤマガラ・ルリビタキなどなど。印象的だったのは、小さな滝のしぶきで水浴びする、キセキレイ。枝の上で、まったく動かないツグミ。傷病鳥獣では見る事のない、自然の中での生き生きした野鳥たち。この野鳥たちのとりまく環境を含め、守って行きたいと強く思う一日となりました。

保全センターで傷病鳥獣のお世話も大切な仕事です。でも、本来の姿を勉強するのも傷病鳥獣のリハビリ等、絶対に必要なことだと思います。みなさまも、ぜひ！いっしょに探鳥会参加しましょう。

報告は初心者参加者でした。



## 上小学校での環境教育の報告

前の週に降った大雪がちらほらと残っている1月31日、秦野市立上小学校で野生動物救護の会による環境教育が行われました。実施時間は3-4校時でしたが、始まる前にサプライズがありました。上幼稚園の年長さんの園児11人が挨拶に来てくれたのです。こちら子どもたちには内緒で連れてきたタヌキのハヤ太くんにかけておいた毛布をさっと取って面会。子どもたちから歓声が上がりました。お礼にと幼稚園歌を歌ってから一人ひとりハヤ太くんの頭をなでて去って行きました。私達も新鮮な気持ちにさせられた一幕でした。

さて、本番の小学校の授業ですが、静まり返った多目的ホールにひびく1～3年生24名の元気のよい挨拶で始まりました。

ここで言う「野生動物」とは鳥類や哺乳類だという話から始まり、動物当てクイズに移りました。まずはシルエットクイズ、そして鳴き声クイズ。タヌキ、シカはすぐわかりましたが、アオサギ、シジュウカラは難しかったようです。新しく作られたクイズは黒い画面に「じけんです。」の白い文字。ヌタ場や木の皮をはいだ跡を見せて犯人を探せ！というこのクイズ、斬新な構成に子どもたちの目は釘付けでしたが、なかなか当たりませんでした。

次の「野生動物はどうしてケガをするのだろうか」というパワーポイントによる説明、釣り糸にからまった鳥の姿に先程とは違って変わってしーんとなっていました。衝突で出血した鳥の画面では、「鳥も赤い血を流すのか」と驚いていた子どもも。子どもたちの気持ちが大きく動いたのが手に取るようにわかりました。

そこで本物の巣を見せながら誤認保護防止の話、巣立ちビナをむやみに連れ去ってはいけない事は解ってもらえたと思います。

この後、危険は野生動物に出会ったら、大きな声を出さず静かにその場を離れると教えられました。

最後は、タヌキのハヤ太くんの登場。親しみを込めたまなざしが一匹のタヌキに集まりました。ハヤ太くんも場馴れしてきたのかずっと大人しかったので、皆に頭をなでられても落ち着いていました。

あっという間だった約1時間、子どもたちは口々に「ありがとうございました。」とお礼の言葉を残して、多目的ホールは再び静かになりました。

園児が描いたタヌキの絵を鑑賞しながら、給食を頂きながら反省会を行いました。短い時間に内容が盛り沢山であった。事前に通して練習していれば時間配分も上手くいったのではないかと。先生からの意見で「上小学校の子どもたちは登下校時に野生動物に遭遇する事も多いので、危険な野生動物に出会ったらの話をもっと詳しく説明して欲しかった。」などがありました。

また是非来年も来て欲しいと先生方に言われたので、次回に生かそうと思います。



## あつぎミニ環境フェアの報告

3月3日、2017あつぎミニ環境フェアが開催されました。昨年の秋、厚木中央公園で開催予定だった厚木環境フェアが台風で中止になり、同様の趣旨のイベントとして、アミュー厚木市民交流プラザ6Fで行われました。

参加団体のブースが約10部屋に分かれており、救護の会は、NPO 神奈川自然保護協会の外来生物のパネル展示と、太陽光発電所ネットワークのソーラーエネルギーの利用についての展示と同じお部屋でした。

救護の会は、傷つく野生動物をテーマに原因別に写真を展示や、羽根標本チームの衝突の原因の統計や、対策などと共に羽根標本をパネル展示しました。当日は天気もよく、お出掛け日よりでしたが、屋内でのイベントのためか、ほとんど一般の来場者がなく、残念でした。

展示をもっと多くの人に見ていただくために、次回は天候に恵まれ、公園で沢山の方に来ていただくと良いなと思いました。



## 第6回「わくわく野鳥探検隊」の報告

3月24日、春休み子ども体験教室に男子3名、女子2名、保護者1名が参加してくれました。午前中はセンターの谷戸での野鳥探検、最初はなかなか、鳥の姿が見えず、鶯の声を聞いたり、おたまじゃくしや、猪のぬた場などを見ながら進んでいると、なんとヒレンジャクの姿が4羽。双眼鏡では、頭の特徴ある形しかわかりませんでした。フィールドスコープを覗いた子供たちは「見れた！」図鑑を見ながら、「一緒だ！」と声を上げながら、観察を楽しみました。その後、モグモグタイム(休憩)を挟み、浄水場方面へ。ヒバリやツグミ、鉄塔の上にいる、ノスリなど、双眼鏡で一生懸命探していました。大きな図鑑を開いて確認する子もいました。

午後は、仲澤さんの救護動物のお話と傷病舎見学からスタートです。傷病舎の中の独特の臭いは、慣れないようでしたが、ゴイサギを実際に触ったりしながら、話に耳を傾けてました。レクチャールームに移動し、午前中の鳥合わせです。今回は17種を確認できました。そして身近な鳥たちのお話が始まると、皆、鳥の豆知識など熱心にメモを取っていました。最後は巣箱作りです。

皆、一列に並んで夢中になって作成してました。最後の仕上げは、図鑑を見ながら、上手に巣箱に絵を描いている子もいました。最後の挨拶で話があったように、今日、見た鳥を家に帰って図鑑などで調べるなど、これからも興味を持ってくれるといいなと思います。



## 野生動物救護の会 お知らせ

### ◆春の羽根・翼標本展示会

期間：2018年4月4日(水)～2018年6月29日(金)  
場所：神奈川県自然環境保全センター2F  
ブナの森ギャラリー

台風によって陸まで飛ばされてきた珍しい海鳥や冬になると日本に渡来するカモ類、川や水田でよく見かけるサギ類など様々な環境に生息している水鳥たちの美しい羽根と翼の標本を展示します。また、江戸時代に描かれた鳥の絵と現代の愛好家が撮影した写真を比較できるようにしました。江戸時代に生きていた同じ種類の水鳥たちを現代の私たちも見られることの素晴らしさを感じてもらい、数百年後の未来の人々も現代の私たちと同様に水鳥たちを見られるようにするためにはどうしたら良いか考えるきっかけを提供する展示になれば良いと願っています。

### ◆救護の会 PR 映像

#### 「小さな救護・大きな命」グランプリ受賞！

かながわ市民映画祭 2017 というイベントで昨年から NPO の PR 映像を募集していました。そこに名乗りを上げたのが産業能率大学の柴田ゼミの学生さんたち。われわれ救護の会を題材に選び、11 月の動物フェスティバルから取材が始まり、12 月の大掃除のときも撮影が目的のはずなのに、フライングケージの掃除で野生動物たちを間近に見て感激ひとしお。救護の会は写真や動画も提供し、安井理事がインタビューに答えるなど実りのある映像に。わずか 3 分という短い映像ですが、市民の方々に強くインパクトを与える作品になっているかと自負していましたが、3 月 18 日(日)、授賞式で NPO の PR 映像部門入選 17 作品のうち見事にグランプリに輝きました。柴田ゼミの学生さんたち、おめでとうございます。野生動物たちの現状が少しでも世間に伝わることを祈って。  
\*この映像は、野生動物救護の会総会で、ご紹介させていただきます。

### ◆丹沢大山ボランティアネットワーク交流会



3 月 18 日(日) かい掘り調査行いました！  
場所は神奈川県自然環境保全センター野外施設 自然観察園内「池5」。目的はアメリカザリガニ、ブルー

ギル等の外来種駆除。参加者 50 名以上。救護の会からは 10 名が参加。かい掘り後の豚汁 & もつ煮は救護の会豚汁班が腕をふるいました。ブログにもアップしましたので、ぜひ見て下さい！

### ◆ふくとみ動物病院 開院！◆

2018 年 1 月 15 日(月)ふくとみ動物病院が藤沢市に開院しました。福富潤院長先生は 2010 年 3 月まで 3 年間神奈川県自然環境保全センターの非常勤獣医師として野生動物救護に力を注いできました。その後、動物病院で腕を磨き、今年新たな第一歩を踏み出されました。救護の会の会員でもある福富先生のこれからの活躍を期待しております。

\*野生動物を、持ち込むときは事前に連絡を入れてからにしてください。

☆会員のみなさまへ

開院にあたり当会からお花を送らせてもらいました。事後報告になりましたが、ご了承下さい。



〈福富先生〉



ふくとみ動物病院

住所 〒251-0002

神奈川県藤沢市

大鋸 1-19-19

TEL 0466-55-5123

HP <http://fukutomi-ah.com/>

### ◆佐藤信敏 写真展

#### 「つばくろ」みんなの知らないツバメの世界

期間：2018年5月2日(水)～2018年5月15日(火)

場所：銀座ニコンサロン 入場無料 VR 体験も出来ます。

注：休館日もあるので確認してください。

(6 月には大阪でも開催)

詳細は以下の URL でご覧頂けます。

<http://www.nikon-image.com/activity/exhibition/salon/events/201706/20180502.html>

# 神奈川県立生命の星・地球博物館に「鳥の仮はく製」 を作りに行こう

## ★ その1 導入編 ★

我々羽根標本班は、11月19日の早朝から小田急線と箱根登山鉄道を乗り継いで、入生田駅に降り立ちました。この日は、「鳥の仮はく製」の作り方を教えてもらうために、神奈川県立生命の星・地球博物館にやってきました。参加者は、渡辺理事長、安井さん、西岡さん、二宮さん、私（遠藤）の5名でした（午後から小林さんと石塚さんが合流しました）。

約束の時刻に博物館の学芸員・加藤ゆきさんが正面玄関まで迎えに来てくださり、さっそく博物館のバックヤードへ案内してくださいました。途中の通路の両側には魚類の液浸標本が入った大きなバケツや資料の詰まった段ボール箱が並べられていて、目に入るものすべてに興味をひかれてしまいました。

作業部屋に通されて荷物を置くと加藤さんから「収蔵庫を案内します」とのお言葉。とてもラッキーです。皆ワクワクしながら、加藤さんに案内されて2階の収蔵庫に向かいました。収蔵庫は1階と2階にグレーチングで仕切られていて、1階には重い液浸標本など収められていて2階には乾き物（はく製）が収められていました。電動で動く棚の中には、たくさんの本はく製が並べられていました。大きな猛禽類から小さな小鳥のはく製まで、いろいろな種類の鳥類のはく製が収蔵されています。中には貴重な丹沢で捕獲されたトキのはく製もありました。

作業部屋に戻ると博物館のボランティアの方たちもいらしていました。自己紹介もそこそこに、この日の作業を開始しました。この日の作業のために用意してもらった個体は、チョウゲンボウ2羽（図1）、カルガモ（図2）、オオバン、ドバト（図3）、ツグミとクロツグミ（図4）が1羽でした。博物館は、希少な動植物、化石や鉱物などの標本を収集して提示していますが、私たちがセンターで世話をしている普通種の標本も扱っています（図5、6）。普通に見ることができる鳥も仮はく製や骨格標本にして研究することによって、採取された地域や年の違いによる個体差などを知るための貴重な資料になるのだそうです。今回、私たちが扱った鳥もドバトとクロツグミ以外は自然環境保全センターから提供された個体です。残念ながら野生に戻してあげられなかった鳥たちですが県博のボランティアさんたちの努力により、人の役に立つ標本に生まれ変わり保存されていることを知ることができました。



図1 チョウゲンボウ



図2 カルガモ



図3 ドバト

図4 クロツグミ



図5 アライグマのフラットスキン標本



図6 タヌキもフラットスキン標本にしています

# 神奈川県立生命の星・地球博物館に「鳥の仮はく製」 を作りに行こう

## ★ その2 実践編 ★

11月19日は、まず標本にする鳥の外部測定からスタートしました。測定項目は、体重、全長、自然翼長（右翼）、翼開長、尾長、跗蹠長（右脚）、露出嘴峰長です。測定値は専用の用紙に記入して保管します。その後、メスで竜骨突起の上部から肛門のすこし手前までを切開して、薄い表皮だけを丁寧に剥がしていきます。まるで洋服を脱がすようにすっぽりと体の部分を皮から抜き取ると最初の工程は終了です。加藤さんと県博ボランティアの渡辺さんが、とても丁寧に指導してくださったおかげで夕方までには全員が鳥の胴体から皮を剥ぐ工程まで終了しました。残念ですが初日はこれで時間切れです。また後日、作業の続きを教えていただく約束をして、我々は夕闇迫る入生田を後にしたのでした。

12月17日の早朝、羽根標本班の面々は途中で中断することになった「鳥の仮はく製」制作作業を再開するために、神奈川県立生命の星・地球博物館を再訪問しました。この日のメンバーは、安井さん、西岡さん、富沢さん、私（遠藤）の4名です。地下駐車場の職員入り口で受付を済ませて、液浸標本の入ったバケツと資料のダンボールが並んでいる通路を通り作業室へと向かいました。作業台には、我々がやりかけにしていた鳥達が置いてありました。約1ヶ月ぶりの再会です。

この日の最初の工程は、皮に残っている筋肉や脂の除去です。皮に肉や脂が残っていると後々はく製が傷む原因になります。できるだけきれいに除去したいのですが、あまり乱暴に扱うと薄い鳥の皮は簡単に破れてしまいます。なるべく皮に穴を開けないように丁寧に作業を進めました。

安井さんがチョウゲンボウの処理を最初に終わらせたので、学芸員の加藤さんが皮の洗浄方法を教えてくれました（図7）。



図7 皮を洗う様子を見学



図8 水でよくすすぎます

きれいにした皮は皮専用の洗剤で洗って、羽根などに付着した血や脂をおとします。洗い終わったら水が濁らなくなるまで何度もすすぎます（図8）。

きれいになったらコンプレッサの高圧空気で羽毛についた水分を吹き飛ばしながらドライヤーで乾燥させます（図9）。

この日はドイツで修行された、はく製師のアイカワ先生が登場して、我々の指導をしてくださいました。



図9 エアーで水分を吹き飛ばす

皮を剥いだ後、保存しておいた胴体を使って型紙を作ります。型紙を参考にして果物の緩衝材に使われる木毛を丸めて詰物を作りました。



図10 詰物を皮に入れます

両脚と両翼に針金を通し、詰物をしてお腹を閉じれば完成です（図10、11）。

とてもきれいなチョウゲンボウの仮はく製が出来上がりました（図12）。



図11 持ち手にする棒を刺す

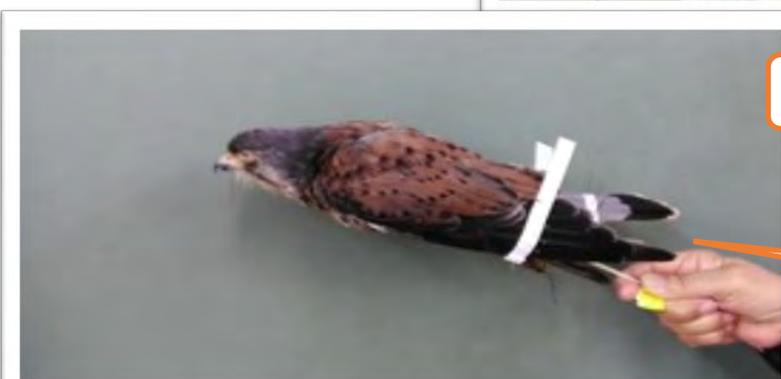


図12 完成したチョウゲンボウの仮はく製

2回に分けて鳥の仮はく製の作成法を県博の皆さんに教えていただきました。仮はく製作りは経験者が少なく、初心者ばかりの救護の会チームでしたが、学芸員の加藤さんをはじめアイカワ先生、県博ボランティアの皆さんの丁寧な指導のおかげでチョウゲンボウ1体を仕上げることができました（他の鳥は時間が足りず、最後まで仕上げられませんでした。残念！）。本当にありがとうございました。とても難しい作業が多く、まだまだ上手には作れませんが今後も練習を続けたいと思います。

# <野生動物痕跡調査団>

## ミッションその② ぴよん大量発生中!?

皆さんは野生動物たちが普段どんな場所でどんな生活をしているかご存知でしょうか？NPO 法人野生動物救護の会の野生動物痕跡調査では神奈川県立自然環境保全センター内にある野外施設に生息する野生動物の種類や生態を解明しようと活動しています。

こんにちは、調査員の小林です！桜も咲きすっかり春になりましたが今年の冬は寒さも厳しく雪が積もりました…しかし、そんな日は雪の上に残された足跡を探せる絶好の調査日和です！普段見つけることが難しい動物の足跡も発見することができますよ？

2018年1月23日朝、前日から降り続いた雪が積もる一面真っ白な野外施設に向かいました。

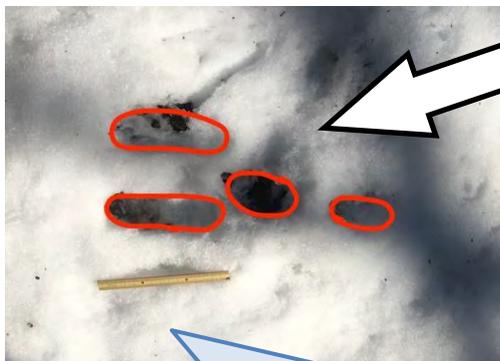


公開エリアにはニホンジカやイノシシと思われる偶蹄目の足跡が多数残されていましたがお目当ての足跡は発見できませんでした…。次は非公開エリアも調査してみましょう。

足跡発見！！



皆さんどこに足跡があるかわかりますか？  
拡大してみましょ！



野外施設に生息しているある動物は寒さや雪にも負けず元気に走り回っていたようです。この足跡の正体は一体何の動物でしょうか。

その前にどちらが前足でどちらが後ろ足か皆さんわかりますか？進んでいる方向からすると大きい足跡が前足のように思えますが…

実は!!

大きい足跡が後ろ足、小さい足跡が前足なんです！！

(前足：約縦7cm×横4cm 後ろ足：約縦13cm×横4cm)

これはこの動物の歩き方に何か特徴がありそうですね??

またまた痕跡調査団の秘密兵器センサーカメラを使ってこの足跡の動物が一体何なのかを確かめてみましょう！

秘密兵器センサーカメラ設置中

設置したい場所にカメラを取り付けられる木などが無い場合は、写真のように三脚などを使って動画を撮影します。果たして映ってくれるのでしょうか？

最初にカメラに映っていた動物は…



テン



これはテンですね…

テンは食肉目イタチ科テン属に分類される動物で先程の足跡とは違い5本の指と爪、肉球が特徴的な足跡です。あの足跡の正体ではなさそうです…

しかし野外施設ではカメラにもなかなか映らない珍しい動物です！

次にカメラに映っていた動物は…

見てください！  
なにやら怪しい歩き方の動物が現れました！

ニホンノウサギ



歩き方が特徴的な動物の代表

ニホンノウサギが現れました！！

ノウサギはウサギ目ウサギ科ノウサギ属に分類される動物で、  
野外施設など神奈川県に生息するノウサギは  
冬の寒い時期になっても毛の色が真っ白にならず  
一年を通して茶色の毛色をしています。

※カメラの写真は1月23日の雪の日ではなく別日に撮影されたものです。

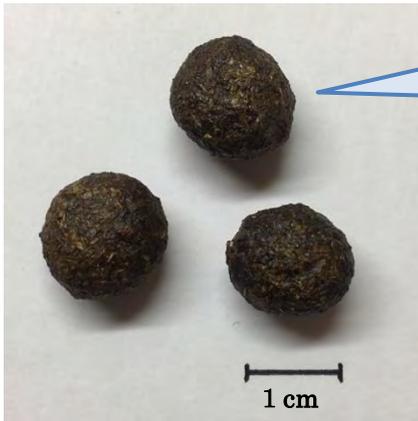


ノウサギの成獣の体重は 1.3-2.5kg と普段足跡が残されているハクビシンやタヌキなどと大きな差はないのにノウサギの足跡はなかなか発見できません。それは、足跡が残されやすい湿った土の場所やぬかるんだ泥の上をあまり歩かず落ち葉の上など足跡が残されにくい場所で生活していることが理由と考えられます。また、ウサギの足の裏は毛がびっしり生えており雪の上でも埋もれないようなカンジキのような役割をしているため雪より硬い土の上では足跡が残りにくいのかもかもしれません。雪の積もった野山ではそんな動物の足跡も発見できるチャンスですね！

また正体がわかって前足と後ろ足が逆に残る理由がわかりましたよね？跳躍歩行（ギャロップ）をするノウサギは進行方向に対して手前に前足、その先に後ろ足が残されます。雪質がよく綺麗な足跡には前足には5本の、後ろ足には4本の指の跡が残されているかもしれません。1月23日のまだ人の立ち入っていない非公開エリアにはいたるところにこの足跡が残されていました。

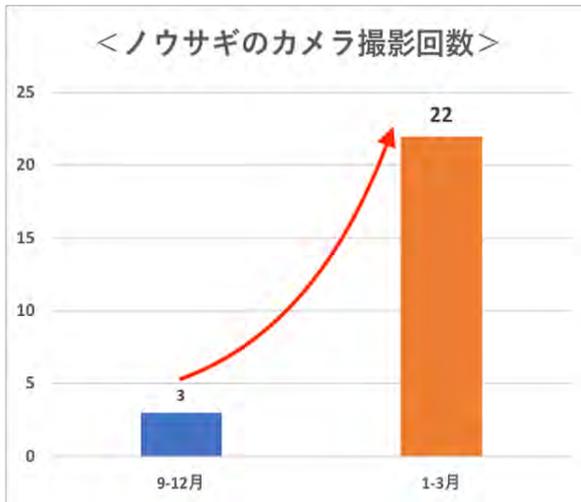


足跡はなかなか発見できませんが雪の日以外でもノウサギの痕跡を見つけることができます。それは…糞です！現在の野外施設では観察路付近でもこの可愛いノウサギの糞を見つけることができます。



大きさは約1 cmで上から見ると真ん丸に見えますが横から見ると少し平べったく、細くなった草などの繊維質が観察でき、こげ茶っぽい色をしています。

ノウサギの糞と似ているのがニホンジカの糞なのですが、右のシカの糞と比べると形や内容物に違いが見られ、シカの糞は色も黒っぽく、よく観察すると容易に識別することができます。



調査を開始してから全く発見できなかった糞の痕跡発見数の増加に比例してセンサーカメラでの撮影回数も9-12月までに比べて大幅に増加しています！以前は1~2羽のノウサギが野外施設に生息していると考えていましたが、3月現在野外施設の非公開エリアを含む6カ所でセンサーカメラにてノウサギが確認されています。ねぐらを中心に半径約400mの範囲で生活しているとされているノウサギですがカメラでの確認結果や糞の痕跡量などから1~2羽だけでなくそれより多い複数羽が野外施設に生息していると私たちは推測しています。今後より詳しく調査していきたいですね！

そんな可愛いノウサギ、ライトの点灯するLEDカメラの前でも警戒せずにくつろぐ姿が撮影されています♪



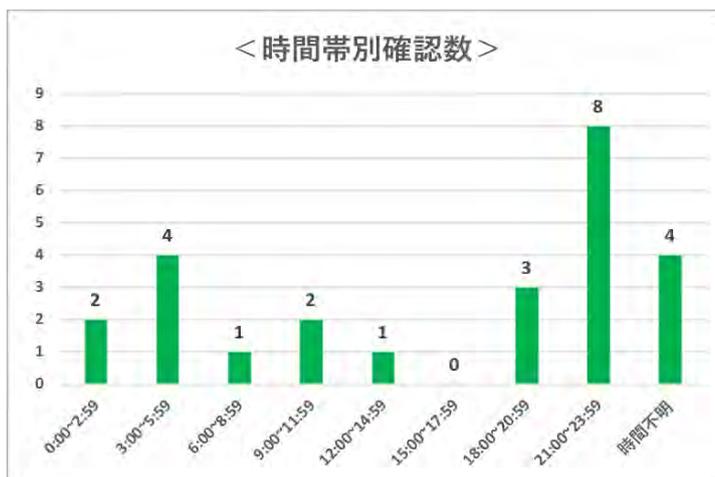
顔を洗っている姿 →  
← 寝ている姿



夜行性と言われているノウサギですが野外施設ではセンサーカメラにて昼間にも活動している姿が確認されています。

運がよければ実際に会うことができるかもしれませんよ？

ぜひノウサギの生活する野外施設に足を運んでみてください！！



僕たちの痕跡を探してみてね！

※ 非公開エリアは立ち入り禁止です。 痕跡調査チームは特別な許可の下非公開エリアで調査を行なっています。ルールを守って楽しく野外施設を散策しましょう！

## 調査団メンバーにインタビュー！！

今回は調査メンバーの Y・A さんに痕跡調査のどんなところが面白いか聞いてみました！！

Y・A さんはイタチやテンなどのイタチ科の動物大好きな獣医学科の学生さんで、野生動物の研究室に所属している痕跡調査のプロフェッショナルである調査員です。

痕跡調査の面白いところは、普段遭遇することが少ない哺乳類たちが確かにそこに生息していることがわかり、どういう行動をしたかを考えることができるころにあると思います。また、獣道や倒木などを見るときにこういう場所は中型食肉目が通り道として利用しそうだというように動物の目線を皆で考えて調査を行っているのも面白いところです。

私は特にイタチ科の動物を調査対象としていますが、通常夜行性であり、山や里山に入っても生体に遭遇することはほとんどありません。このため残された足跡や糞が生息の手掛かりとなります。痕跡を見つけることで、自分が今いる場所に彼らが確かに来ていたことが分かり会うことはできないものの、場所を共有しているのを感じてとても嬉しく思います。

痕跡調査では動物に直接出会う機会は少ないですが、そんな痕跡調査の面白さ、魅力を聞くことができました♪ こんな痕跡調査に少しでも興味を持っていただけたら幸いです。 白黒写真で動物や足跡の様子がわかりにくいと思います。野生動物救護の会公式ホームページでは見やすいカラー写真で掲載されています。ぜひそちらでもご覧ください！！ 次回もお楽しみに！

～ On your side ～



## 人のものだけではない地球 環境や動物たちの立場になって 皆で考え実行しよう

ボランティア歴 16 年目の伊熊さんがボランティア活動をしなが  
ら日々思うことを文章にしてみました。

テレビ好きの方々には申し訳ないが最近のテレビは本当はかなりつまらないと思っているため、パソコンで良かった番組やまた視たいと思う物だけをピックアップして楽しんでいるのだがそんなハイテクな事が不可能だった時代、両親と良く見ていたのがNHKのプロジェクトXという番組だった。(ご存知の方～♪)日本の発展の礎を築き、困難なミッションに命がけで立ち向かった人達のドキュメンタリーである。

だが…必ずその裏では自然破壊があるという事実。青函トンネルを作る場合、まず携わる人達のねぐらを用意し工事の土台を作り、ブルドーザーやトラックが出入りし停めておくスペースが必要となる。その場所を確保するため木を伐採し山を切り開き平地にし作業の土台を作るのだが…その中にどれだけの動物たちが棲んでいたのだろうか？棲み家を潰され追い出されたその中には幼獣やヒナがいた

だろう。親だってギリギリまでその子たちの側にいたに違いないのだ。現実、小田原城横の林の伐採時に木のうろに棲んでいたアオバズクが3羽、センターに運ばれて来た。

またある書面で架橋を渡す工事の最中「ツバメの巣がありヒナがいて可哀想だったがそのまま撤去した」という話や更地だった場所に新しい街を作る時、何頭もの狸が殺されたなどと、耳を塞ぎたくなる様な話は尽きる事がない。

先日、毎年3月の2週目に幕張メッセで行なわれるフードイベントに行ってきたのだが、それは日本のみならず世界中からディストリビューターを求めてフードメーカーが集結する。その中にカンガルーの肉を日本に広めるため来日している業者がいた。今オーストラリアではカンガルーが増え過ぎて生態系を壊しつつあるという。そこで政府は野生のカンガルーを食肉用に狩猟するのを許可し

ており、皮を取るためだけの行為は禁止。なのでまだ数は減り過ぎていないから大丈夫、減ったら狩猟を禁止するのだとの事だったが…。減り始めてから対応して間に合うのだろうかという思いが頭を過った。数を減らし始めてから対応したが、結局手遅れになり絶滅した動物たちがどれだけいた事か。

イベントのテーマそっちのけでそんな思いにとらわれた。

常日頃、目に止まる風景やちょっとした出来事に動物たちへの迫害や環境破壊に結び付けていくクセが身に付いてしまった。それに対して何も出来ない事も多いが、それではいけないのではないかという気持があるからこそ行動に現れる事もある。

先述のツバメのヒナ、その事を知ったボランティアの人達が現場に駆け付け、ゴミと一緒に捨てられた巣の中からヒナたちを助け出したそうである。またセンターのボランティア室にあった本の内容だが、山の野焼きに合い親が逃げて置き去りになっていた巣に残っていた小さなムササビを大人

になるまで育て上げ、ソフトリリースしながら放野した家族の物語だった。建設の裏には必ず破壊と迫害がつきものである。

私自身、開発の恩恵に預かっている所は沢山あるので非難だけする様ではいけないとは思っている。しかしそこに棲息していた木々や動物たちがいた事を決して忘れてはいけないし、まして無意味に殺したりツバメのヒナの様に安易にゴミと一緒に捨てたりなどもってのほか、言語道断である。同じ事をされたらと自分に立ち返ってみるべきであり先住者である彼らに敬意を払い、やむを得ない場合は受け入れる収容施設を探すなり市などの行政に相談したり動物園に引き取ってもらうなど、最大限の努力をし責任を取るべきだと思う。

弱い者を守り庇い思いやるという美しい心と行為は何よりも尊い。いつもいつも投げ掛けている言葉。

人のものだけではない地球 環境や動物たちの立場になって皆で考え実行しよう

～ On your side ～



# -2017 年度事業報告・2018 年度事業予定(案)-

2018 年 4 月より、弊会でも新年度の活動がスタートしています。会員の皆様には日頃から会の活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。昨年度は設立 10 周年の記念すべき一年となり、充実した活動を行うことができました。5 月に予定されている定期総会では、昨年度の総括や今年度の事業内容につ

いて活発に論議していただきたく、ここに前年度の活動報告と今年度の活動予定を掲載します。皆さまには是非目を通していただき、ご検討をお願い致します。

昨年度より新たな調査活動なども始まっており、益々活発に活動していく予定ですので、皆様のご協力・ご参加もお待ちしております。

## 2017年度 NPO 法人野生動物救護の会 事業報告

### 1. 傷病鳥獣救護の直接的活動

傷病鳥獣の救護ボランティアの推奨	通年	自然環境保全センター	
M プロジェクト (猛禽類のリハビリ)	通年	プロジェクト参加者自宅	

### 2. 救護ボランティアを養成する活動

野生動物救護ボランティア講習会 打ち合わせ	5/23 5/28	自然環境保全センター	
野生動物救護ボランティア講習会	6/3 6/4		
野生動物救護ボランティア講習会修了式	9/24	自然環境保全センター	

### 3. 主に会員を対象とした啓発活動

探鳥会 (8 名参加)	12/23	大和市泉の森	
羽根標本等の標本作成		自然環境保全センター	
野生動物痕跡調査講習会	9/16 12/3	自然環境保全センター	
羽根標本展示会 (ツバメの仲間と渡りの不思議)	9/17	自然環境保全センター	

### 4. 主に市民を対象とした啓発活動

丹沢大山自然再生活動報告会 ポスター展示	10/15		
各種イベントの準備 (グッズ作製など)	10/15	自然環境保全センター	
秦野市民まつり	11/3	秦野市民公園	
神奈川工科大学にてパネル展示	11/4 11/5	神奈川工科大学	
動物フェスティバル 神奈川 in さがみはら	11/5	相模原市民会館	
第 17 回 さがみ自然フォーラム パネル展示	2/8~2/12	アミューあつぎ	
厚木市 ミニ環境フェスティバル	3/3	アミューあつぎ	
神奈川県市民映画祭 2017 授賞式 参加 産業能率大学生の野生動物救護の会紹介の映像が グランプリ受賞	3/18	神奈川県民文化センター	
環境教育 打ち合わせ	11/13 11/29 1/16 1/27	自然環境保全センター	
環境教育 はだのエコスクール	1/31	秦野市立上小学校	
夏休み子ども体験教室 打ち合わせ	7/10 7/22	自然環境保全センター	
夏休み子ども体験教室 (野生動物を学ぶ)	7/29		
春休み子ども体験教室 打ち合わせ	3/10	自然環境保全センター	
春休み子ども体験教室 (わくわく野鳥探検隊)	3/24		

## 5. 情報発信的活動

会報誌RUNNERの発行 Vol. 27, 28, 29	4/23 9/24 12/24	厚木市サポートセンター	
ホームページの運営 会員への情報発信	通年	野生動物救護の会事務局	

## 6. 調査・観的な活動

秦野市立図書館衝突調査	4/28 5/26 6/30 7/26 8/25 9/29 10/27 11/24 12/22 1/26 2/23 3/30	秦野市立図書館	
秦野市立図書館衝突調査 打ち合わせ	1/20	自然環境保全センター	
バードリサーチの調査研究支援に参加			
樹洞性哺乳類・鳥類調査		自然環境保全センター	
野生動物痕跡調査		自然環境保全センター	
足環プロジェクト	通年	自然環境保全センター	

## 7. 関係団体との協働的活動

丹沢大山ボランティアネットワーク総会	4/8	自然環境保全センター	
丹沢大山ボランティアネットワーク世話人会	9/6 3/7	自然環境保全センター	
丹沢大山ボランティアネットワーク交流会 かいぼり&豚汁	3/18	自然環境保全センター	
丹沢大山ボランティアネットワーク交流会 池の清掃	3/18	自然環境保全センター	
傷病鳥獣保護連絡協議会			

## 8. 運営的活動

NPO法人 野生動物救護の会定期総会	5/20	厚木市役所第2庁舎	
野生動物救護の会 懇親会	5/20	厚木市内	
救護の会の事務的管理(名簿・会費・物品など)	通年	野生動物救護の会事務局	
野生動物救護の会の理事会・スタッフ会議	随時	自然環境保全センター	
傷病舎大掃除及び豚汁大会(32名参加)	12/9	自然環境保全センター	

## 9. 10周年記念事業

バード週間に誤認保護防止のためのチラシ配布	5/27	本厚木駅前広場	
10年間の活動記録(会報誌VOL28で特集)	9/24	厚木市サポートセンター	
10周年記念品作成(手ぬぐい)総会で配布	5/20	厚木市役所第2庁舎	
10周年記念講演会 佐藤信敏氏 「写真から読み解くツバメの現状」福島ツバメ調査の報告	5/20	厚木市役所第2庁舎	



# 2018年度 NPO 法人野生動物救護の会 事業予定(案)

## 1. 傷病鳥獣救護の直接的活動

傷病鳥獣の救護ボランティアの推奨	通年	自然環境保全センター	
Mプロジェクト（猛禽類のリハビリ）	通年	プロジェクト参加者自宅	

## 2. 救護ボランティアを養成する活動

野生動物救護ボランティア講習会	年2回	自然環境保全センター	
野生動物救護ボランティア講習会修了式	年1回	自然環境保全センター	

## 3. 主に会員を対象とした啓発活動

探鳥会	年数回	近隣各所	
講演会	1～2回	自然環境保全センター	
羽根標本等の標本作成	年数回	自然環境保全センター	

## 4. 主に市民を対象とした啓発活動

羽根標本や翼標本に関する企画展示	4月～6月	自然環境保全センター	
誤認保護防止のためのチラシ配布	5月	未定	
各種イベントへの参加 （動物フェスティバル、秦野市民まつり、その他）	各期日	各イベント会場	
各種要請による講演	随時	各会場	
環境教育 学校からの要請による環境教育	随時	各学校等	
夏休み子ども体験教室（野生動物を学ぶ）	未定	自然環境保全センター	
春休み子ども体験教室（わくわく野鳥探検隊）	未定	自然環境保全センター	

## 5. 情報発信的活動

会報誌RUNNERの発行	年数回	厚木市サポートセンター	
ホームページの運営 会員への情報発信	通年	野生動物救護の会事務局	

## 6. 調査・観察的な活動

秦野市立図書館衝突調査	月1回程度	秦野市立図書館	
樹洞性哺乳類・鳥類調査	通年	自然環境保全センター	
野生動物痕跡調査	通年	自然環境保全センター	
足環プロジェクト	通年	自然環境保全センター	

## 7. 関係団体との協働的活動

丹沢大山ボランティアネットワーク総会	4/14	自然環境保全センター	
丹沢大山ボランティアネットワーク講演会・探鳥会	4/29 (予備日 4/30)	自然環境保全センター	
傷病鳥獣保護連絡協議会	未定	未定	

## 8. 運営的活動

NPO法人 野生動物救護の会定期総会・懇親会	5/19	場所未定	
救護の会の事務的管理 (名簿・会費・物品など)	通年	野生動物救護の会事務局	
野生動物救護の会の理事会・スタッフ会議	随時	自然環境保全センター	
傷病舎大掃除及び豚汁大会	12月	自然環境保全センター	



# インフォメーション

## 定期総会・報告会

### ◆第11回 NPO 法人 野生動物救護の会 定期総会

▽日時:5月20日(日)14:20~受付 14:40~総会

▽場所:厚木市総合福祉センター 4階 ボランティアセンター研修室(バスセンターのすぐ隣)

### ◆調査チーム報告会

▽日時:総会後そのまま 15:20頃~16:40 終了予定

▽場所:厚木市総合福祉センター 4階 ボランティアセンター研修室

(総会に引き続き同じ場所で開催)

▽痕跡チーム…保全センター内における野生動物の痕跡調査(40分)

巣箱チーム…保全センター野外施設における野生動物の繁殖調査(20分)

衝突チーム…神奈川県における野鳥のガラス窓への衝突調査(5分)

その他…かながわ市民映画祭でグランプリを受賞した動画作品紹介

(野生動物救護の会の活動を紹介した作品)(5分)

## ボランティア講習会

### ◆神奈川県 野生動物救護ボランティア講習会

▽日時:6月2日(土)または3日(日)

▽場所:自然環境保全センター レクチャールーム

☆毎年恒例!今年も新たに野生動物救護ボランティアさんを募集し、野生動物救護に関する知識を学んでいただきます。

1日の講習会を2回行い、どちらかに参加してもらいます。

## 衝突調査

### ◆秦野市立図書館衝突調査

▽日時 毎月最終金曜日 →今後の調査日は2018年4月27日、5月25日、6月29日

▽場所 秦野市立図書館

☆野生動物救護の会「バードストライク研究会」では窓ガラスへの野鳥の衝突調査と一緒に  
行ってくれる方を随時募集しています。興味のある方は事務局までご連絡を!

## “救護の会 ブログ” 始まっています!

### ◆野生動物救護の会の活動の様子を楽しくご紹介!

日常のボランティア活動や、猛禽類の訓練風景(M project)、各種イベントのお知らせや

報告などなど、随時更新しています。救護の会 HP トップページ

「救護の会ブログ始めました!」のバナーをクリックしてご覧下さい♪

アドレスはコチラ→ <http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/index.html>



\* 詳細は当会ホームページをご覧ください \*

### ☆☆会員へのお誘い☆☆

当会は、設立趣旨にご賛同頂きました皆様方の会費によって運営されております。

どなたでもご参加いただけます

★一般会員:年会費 2,000円

★学生会員:年会費 1,000円

私たちの活動を支えて下さる賛助会員も同時に募集しています

★賛助会員:年会費 法人一口 5,000円/個人一口 3,000円 一口以上

【振込先】 ゆうちょ銀行振替口座 : 00270-0-47040

名義 : 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

発行月:2018年4月 発行:特定非営利活動法人 野生動物救護の会 電話:0463-75-1830  
〒259-1306 神奈川県秦野市戸川 1086 番地の 4 ホームページ:<http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/>  
編集者 表紙:馬岡洋子(渡辺みずほ)/活動の現場:平沼亜矢子/救護の会お知らせ:渡辺みずほ/  
神奈川県立生命の星・地球博物館に「鳥の仮はく製」を作りにいこう:遠藤順一(森紀美子) /  
野生動物調査団ミッションその②ぴょん大量発生中:小林夏子/~on Your Side~人のものだけでは  
ない地球 環境や動物たちの立場になって皆で考え実行しよう:伊熊智子(平沼亜矢子) /  
野生動物救護の会 2017 年度事業報告・2018 年度事業予定(案):佐藤幸太郎(神崎さつき) /  
インフォメーション:神崎さつき